



◆大崎町子ども会大会について

趣 旨：町内の児童・生徒が一堂に集い、異年齢集団での交流活動を通して子ども会の活性化を図り、心豊かな子どもを育成する。

期 日：2月18日（土）[青少年育成の日]

時 間：8：30～

場 所：大崎町総合体育館

内 容：アトラクション

創作活動（竹笛づくり・凧づくり）

スポーツ活動（長なわとび）

対象者：子ども会会員・町内の児童生徒及び保護者



▲ゴム鉄砲作り風景

◆第59回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会

期 日：2月25日（土）～29日（水）

○大崎町通過予定日

第4日目 2月28日（火）

大崎中継所（しろやまビル白鶴前）を13：27頃
に通過する予定です。あたたかいご声援をよろしくお
願いたします。



▲昨年度の様子

まじの窓おしの庭 NO.3

伝える

大崎第一中学校長 南田武法

幼少時代の思い出の風景がある。夏の朝に食卓を囲む家族の風景。布団に潜り込んで母が語る昔話に聞き入る風景。中でも昔話の思い出は特に懐かしい。今日とはどんな話かわくわくし、何度も聞いた話であれ、先を知っている物語であれ耳を傾け、父母のぬくもりを感じながらいつのまにか寝入ってしまう繰り返しであった。『因幡の白ウサギ』『桃太郎』……昔話に込められた勸善懲悪の世界、因果応報の人生、偉人へのあこがれ、歴史やまだ見ぬ世界への興味などを知らず知らずに教え育ててくれていた。それは父母の価値観、人生観を語ることであり、歴史観を伝える営みでもあった。

いつの頃からか親子の隔たりや家族の崩壊を思わせる変化が起きている。人が生を受けてから独立するまでの父母との共なる人生は短い。幼少期は「三つ子の魂百まで」と言われ、感性を育てる貴重な期間とも言われる。幼子に添い寝しながら昔話を語るという簡単な営みで多くのことが伝わるし、親世代と子世代との感性の断絶を埋める営みでもあろうし、親として子への教えの初めでもあるのではないだろうか。

親元を離れての生活で、親心が胸に染みだした和歌がある。「いとほしみなしむ餘り捨てし子の聲立ち聞きし夜半もありけり」。これは幕末動乱の頃、遠く福岡から鹿児島を訪うた折に「我が胸のもゆる思ひにくらぶれば煙は薄しさくらじまやま」と詠んだ平野國臣の歌である。家族を顧みずに国事に奔走した人ではあったが、一方、心ならず分かれた妻子への情と慟哭の心が偲ばれ、心に残っている。